

平成20年度
突風等短時間予測情報利活用検討会
について

平成20年7月29日
第1回 突風等短時間予測情報利活用検討会
気象庁

突風等短時間予測情報等のあゆみ

雷注意報及び気象情報のなかで、適宜、雷、突風等に警戒を呼びかけてきた。

平成17年12月25日 山形県で顕著な突風発生(羽越線事故)

平成18年3月 東京気象レーダーをドップラー化

平成18年度

平成18年4月 突風等短時間予測情報の発表開始に向け、気象庁内の技術開発体制を構築

平成18年9月17日 宮崎県で竜巻発生、延岡市で死者3名

平成18年11月7日 北海道で竜巻発生、佐呂間町で死者9名

平成19年3月までに、仙台・新潟・名古屋の各気象レーダーをドップラー化

平成19年度

内閣府は、関係省庁による「竜巻等突風対策検討会」の検討結果を中央防災会議に報告

突風等短時間予測情報利活用検討会(初年度目)を開催
平成22年度からの予測情報に先駆けて発表を開始(平成20年3月)する新たな府県気象情報(竜巻注意情報)の内容、発表形式等について検討

新規に、文章形式による「竜巻注意情報」の提供開始(平成20年3月26日)

既存の気象情報に、「竜巻など激しい突風のおそれ」のキーワードを付した発表を開始(平成20年3月26日)

平成20年3月までに、釧路・函館・松江・室戸岬・福岡・種子島・沖縄の各気象レーダーをドップラー化

平成20年度

突風等短時間予測情報利活用検討会(2年度目)を開催
・平成22年度からの予測情報について、提供開始当初から防災効果を踏まえた天気解説や防災端末の構築がなされるよう、竜巻等突風について利用上の留意点や利用例等を検討し、ガイドラインとして公表
・平成22年度からの予測情報のうち、雷について防災に係る情報としての利活用を検討

現在

平成20年度 検討会の進め方

平成20年

7月29日 第一回 利活用検討会

竜巻等激しい突風に注意を呼びかける情報の精度評価と今後の対応
ガイドラインのスケルトン(案)

利用想定機関から意見を聞きながら、ガイドラインの
作成作業を進める。(ガイドラインは、突風を対象に作成)

雷関連プロダクト作成の方向性(主に、解析)

11月 第二回 利活用検討会

ガイドライン(案)

雷関連プロダクト作成の方向性(主に、予測)

平成21年

2月 第三回 利活用検討会

ガイドライン(最終案)

雷関連プロダクトの利活用

平成22年に向けた周知・広報(案)

平成21年3月 ガイドライン 公表

平成21年度 情報開始に向けた周知広報・技術開発・システム整備

平成22年度 格子点形式の突風等短時間予測情報発表開始

今年度作成するガイドラインとは

平成20年3月開始 文字形式の「竜巻注意情報」等
平成22年度開始 格子点形式の突風等短時間予測情報（計画）

竜巻等激しい突風に警戒を呼びかける情報
の、具体的な利用・伝達の方法、利用上の注
意等に係るガイドライン

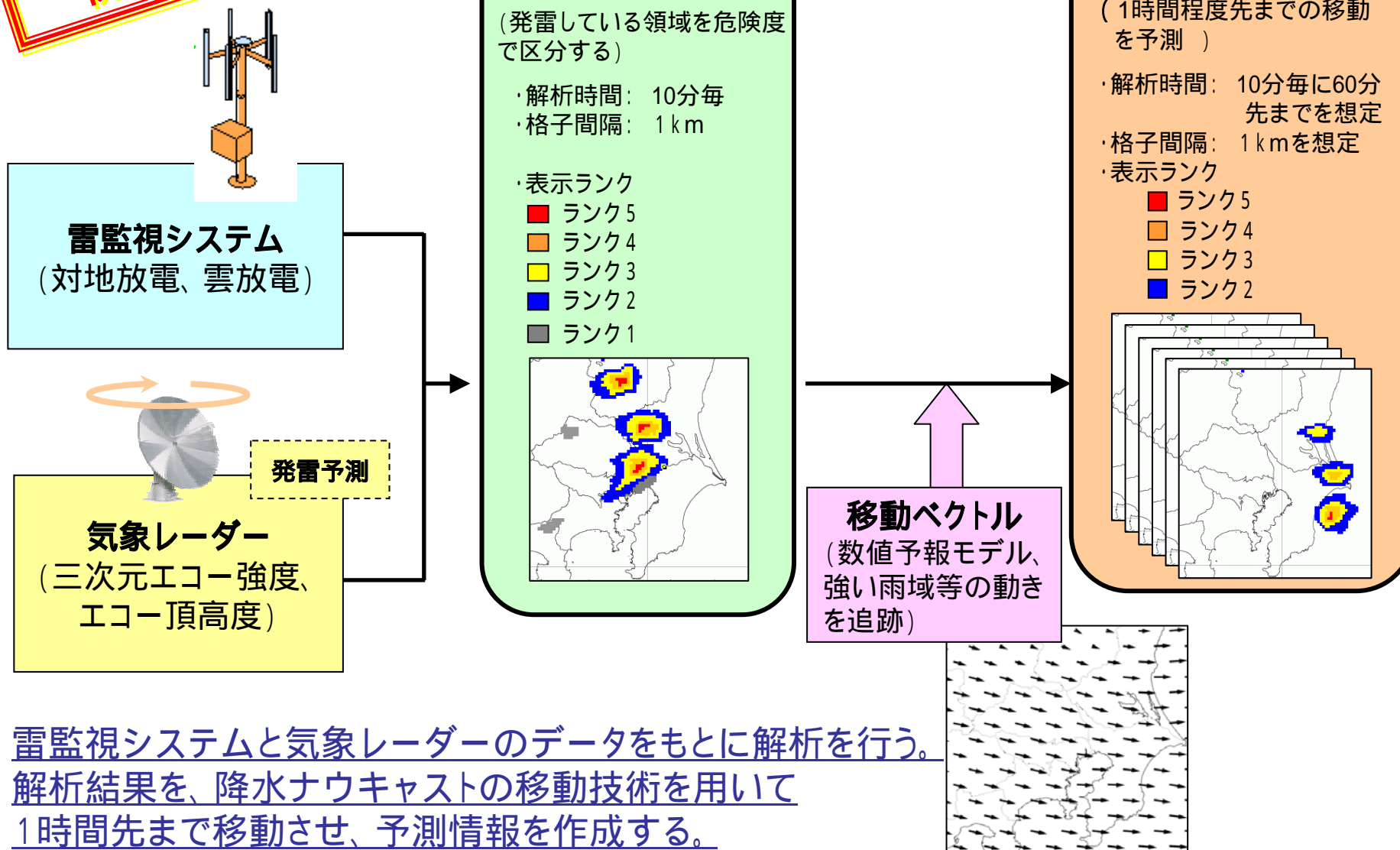
早々にガイドラインを示すことで・・・

平成22年度、格子点形式の突風等短時間予測情報開始時点において、民間気象事業者等による適切な一般向け気象解説、特定利用目的の事業者向けコンテンツの準備が整うよう、その解説資料を提示する。

詳細は
資料4で説明

平成22年度から
開始(計画)

雷の短時間予測情報 (概要)



雷監視システムと気象レーダーのデータをもとに解析を行う。
解析結果を、降水ナウキャストの移動技術を用いて
1時間先まで移動させ、予測情報を作成する。

本日、ご検討いただく事項

- 1 . 平成20年3月より開始した「竜巻注意情報」等の評価と今後の対応について
- 2 . ガイドラインに記述すべき事項と、作成の進め方について
- 3 . 雷の短時間予測情報（第1回は主に、解析）について
(開発の方向性と、注意を呼びかける情報としての考え方)